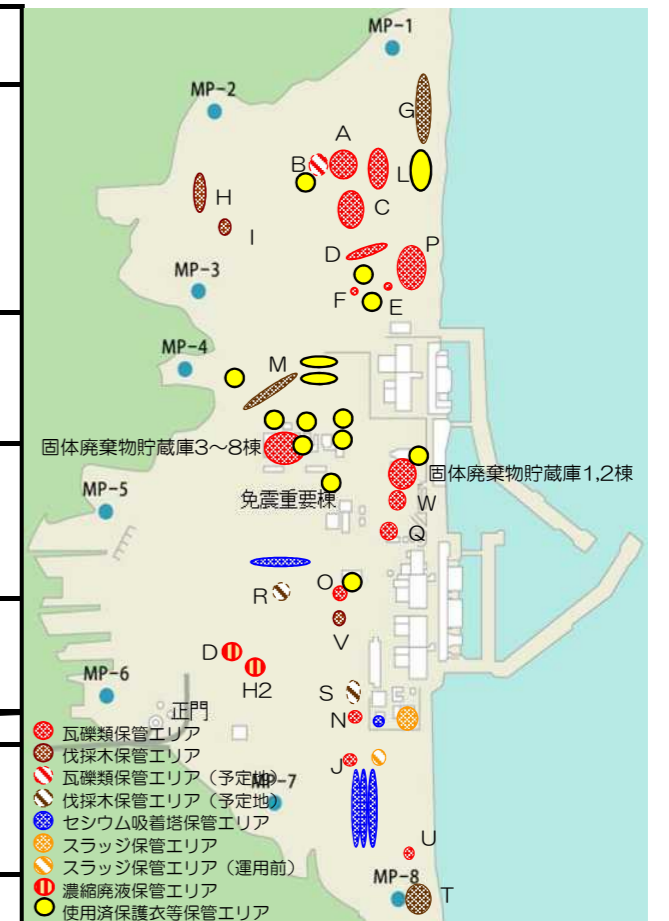


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.5.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量*1	前回報告比*2 (2016.4.30)	変動*3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス		
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	56,800 m ³	+1,900 m ³	①②③④	90%	125800 / 177900 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアCの破碎コンクリートの再利用実施。 フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2016年5月末時点で230基(コンテナ)保管。 	
		F	屋外集積	0.01未満	5,900 m ³	微増 m ³	—	78%			
		J	屋外集積	0.02	4,300 m ³	+300 m ³	⑤	89%			
		N	屋外集積	0.01	4,200 m ³	0 m ³	—	42%			
		O	屋外集積	0.01	26,200 m ³	0 m ³	—	95%			
		P	屋外集積	0.01	27,700 m ³	+800 m ³	①	43%			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	36100 / 57300 (63%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアE、エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から 容器収納へ移行中。 	
		E	シート養生	0.02	7,600 m ³	+900 m ³	②⑥	47%			
		P	シート養生	0.01	4,900 m ³	+100 m ³	⑦	54%			
		W	シート養生	0.02	21,000 m ³	0 m ³	—	72%			
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	20400 / 27700 (74%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了 	
		A	仮設保管設備	0.32	1,800 m ³	+100 m ³	②	25%			
		E	容器*4	0.02	300 m ³	微増 m ³	—	19%			
		F	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%			
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器*4	0.02	6,900 m ³	微増 m ³	—	57%	6900 / 12000 (58%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、1~3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。 	
		合計(ガレキ)			189,200 m ³	+4,000 m ³	—	69%			
	伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	65200 / 81500 (80%)	<ul style="list-style-type: none"> 工事により発生した幹・根を随時受入中。
			I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
			M	屋外集積	0.01未満	39,300 m ³	+100 m ³	⑥	87%		
V			屋外集積	0.03	700 m ³	+500 m ³	⑧	12%			
一時保管槽 (枝・葉)		G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500 m ³	0 m ³	—	65%	19600 / 24900 (79%)		
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%			
合計(伐採木)			84,900 m ³	+700 m ³	—	80%					
保護衣	屋外集積	容器	0.04	66,500 m ³	-2,500 m ³	⑨⑩	89%	66500 / 74500 (89%)	<ul style="list-style-type: none"> 雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) 使用済保護衣等焼却量 497t(2016年5月末累積) 焼却灰のドラム缶数 44本(2016年5月末累積) 		
合計(使用済保護衣等)			66,500 m ³	-2,500 m ³	—	89%					



※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

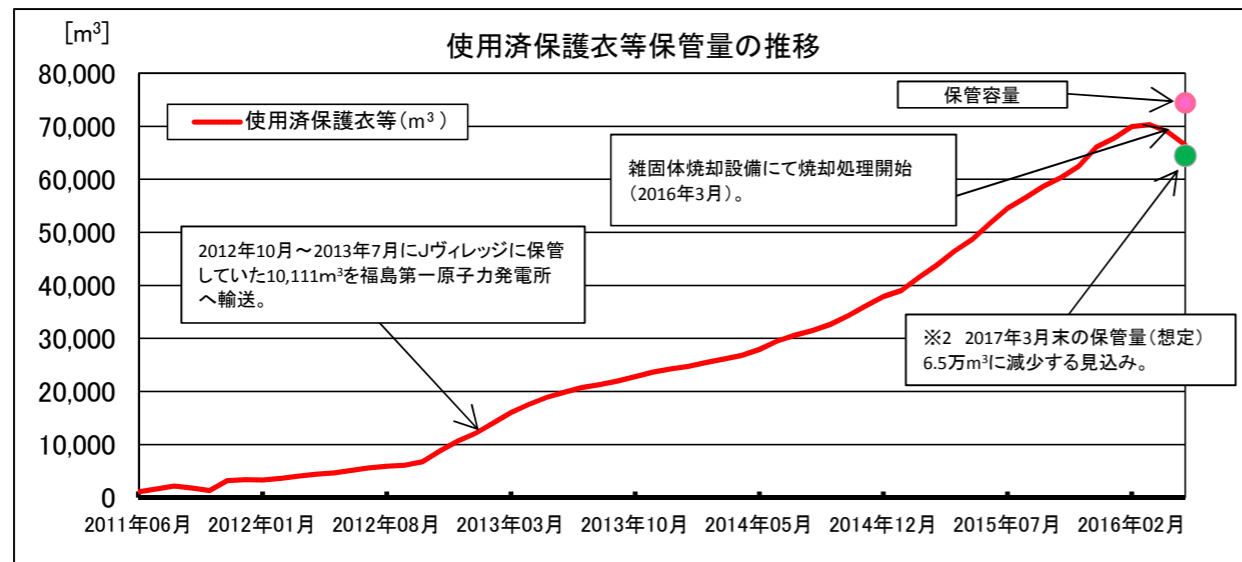
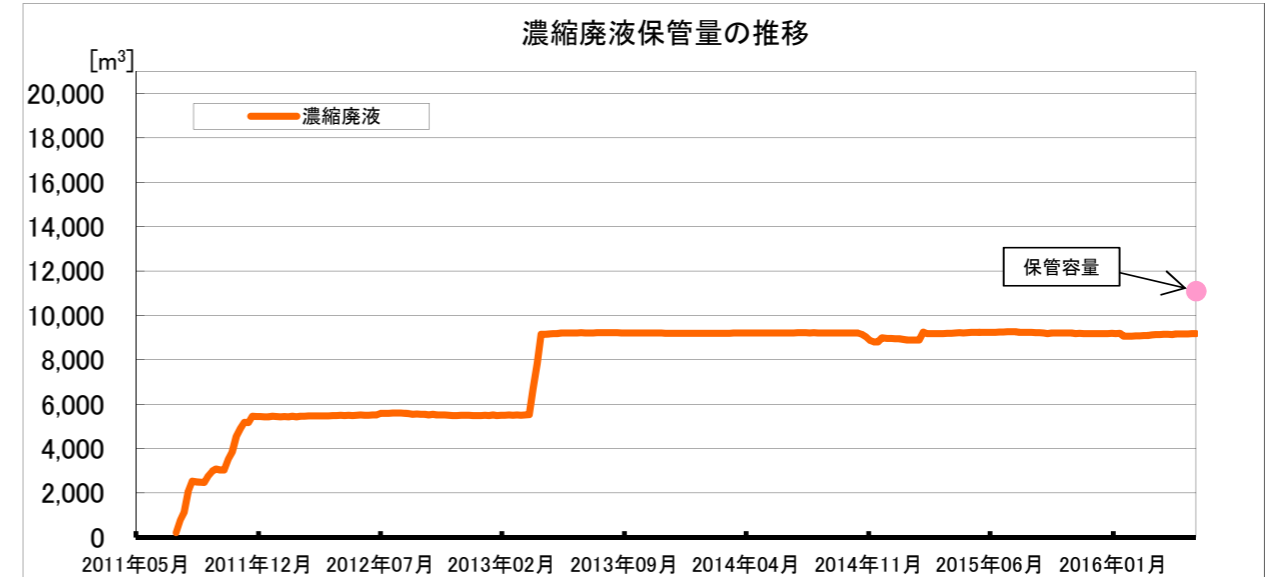
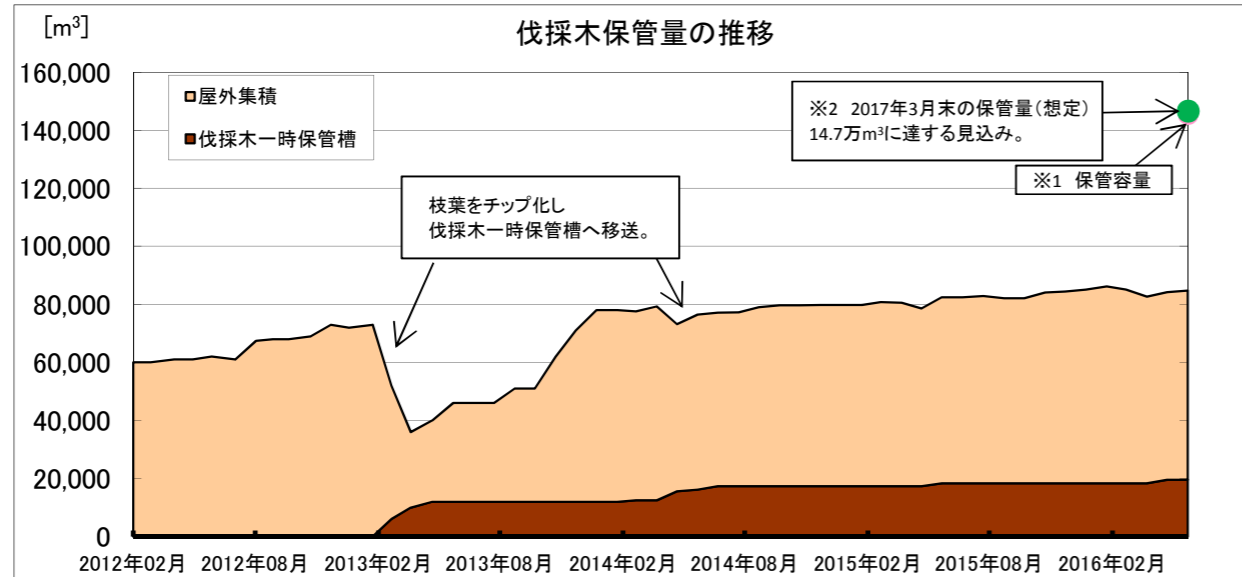
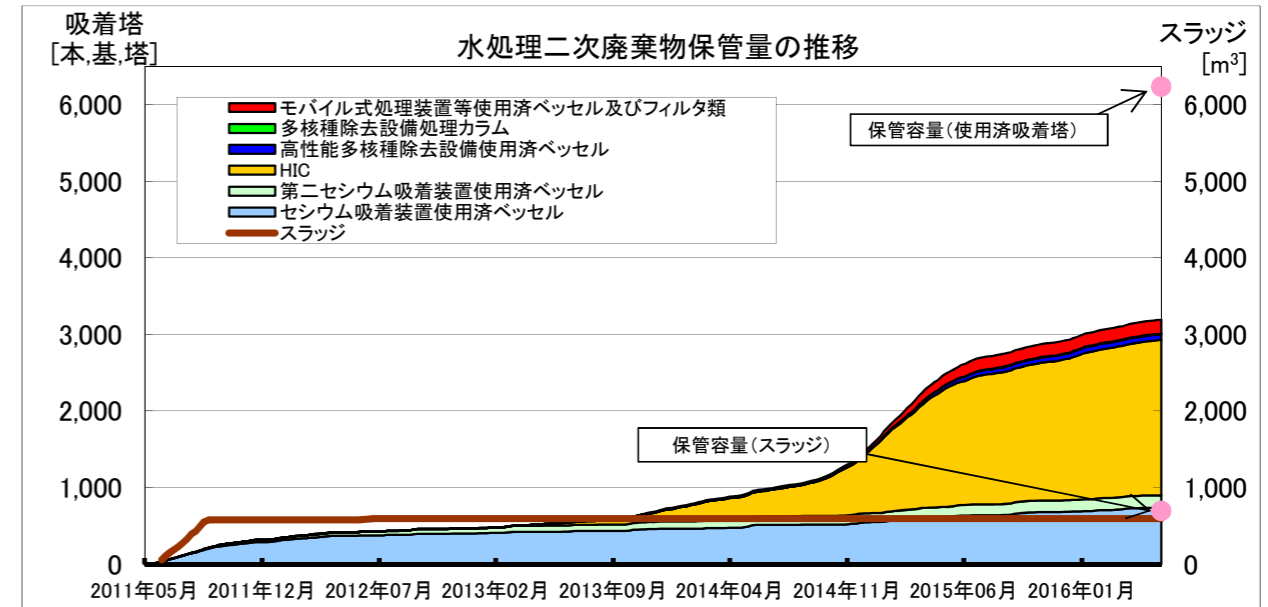
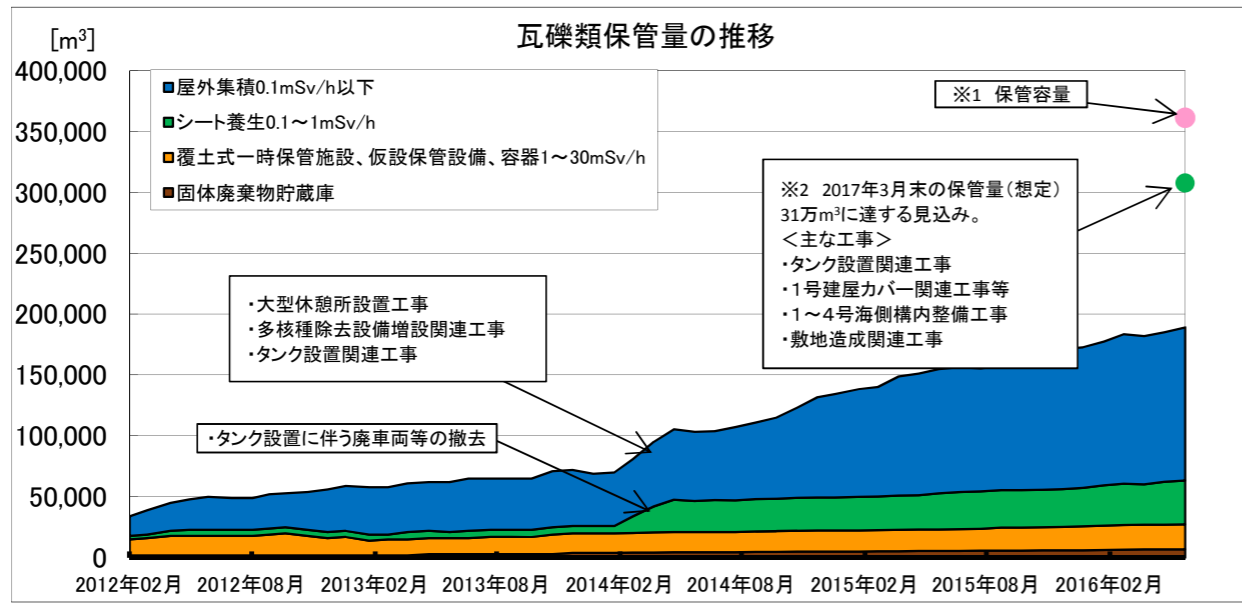
※3 主な変動理由: ①タンク設置関連工事 ②1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ③破碎コンクリートの再利用 ④エリア整理 ⑤焼却対象物の受入
⑥フェーシング工事 ⑦リスク低減対策による容器収納 ⑧敷地造成関連工事 ⑨焼却処理 ⑩使用済保護衣等の受入

※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2016.6.23時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.5.19)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バessel	734 本	0 本	3192 / 6239 (51%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) 	
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	164 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,162 基			+9 基
			増設	869 基			+17 基
		高性能多核種除去設備使用済バessel	高性能	73 本			0 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類		181 本	+1 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,183 m ³	+14 m ³	9183 / 11100 (83%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場バトロール異常なし) H2エリア(9,700m³)の撤去計画が認可。(2015年10月1日) これまで、8,900m³を供用廃止。 保管量に「タンク底部~水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m³) 	

瓦礫類・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液・使用済保護衣等の保管量推移



※1 瓦礫類・伐採木の保管容量は、実施計画(2015年7月17日認可)の保管容量を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の2016年度末の保管量(想定)は、2015年7月の予測値。